

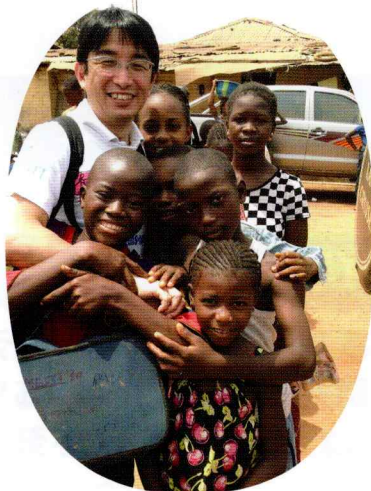
長崎大学の感染症研究施設の今をお伝えする

# BSL-4 Report

Vol.2  
2020.10.



## BSL-4 施設が目指すもの



ギニア共和国にて  
現地の子どもたちと

現在、長崎大学はエボラウイルスなども扱える最高レベルの安全性を備えたBSL-4施設と呼ばれる新たな感染症研究施設を建設しています。

1980年代にエイズという新たなウイルス感染症が出現し、当時不治の病として多くの方が亡くなりました。この病気を起こすヒト免疫不全ウイルス（HIV）を用いた研究はBSL-3実験室（施設）で行わなければなりません。当時BSL-3実験室は世界的にも数が少ない状況でした。エイズ患者が急増し、社会問題化する中、エイズ研究のためにBSL-3実験室の整備が全世界で急速に進められました。施設整備と研究者の集積の結果、エイズ研究は驚異的に進展し、現在、エイズは不治の病ではなくなり、制御可能な感染症となっています。

現時点で有効なワクチンや治療薬がないエボラ出血熱やラッサ熱についても同様に、それらの病原体を扱うことができるBSL-4施設が整備され、研究が加速すればワクチンや治療法が確立され、人類にとっての脅威ではなくなります。

昨年末、中国に端を発した新型コロナウイルス感染症の流行は瞬く間に全世界に拡大し、現在もなお感染者が激増し続けており、人類は改めて感染症の脅威を実感しています。

長崎大学のBSL-4施設は、優秀な人材が集う場として、感染症克服に貢献する研究成果を上げ、また、国内外に優秀な人材を輩出する研究・教育の拠点となることを目指します。

令和2年10月

長崎大学感染症共同研究拠点 高度安全実験（BSL-4）施設設置準備室長  
長崎大学熱帯医学研究所 新興感染症学分野教授  
安田 二郎

BSLとは、バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。また実験施設の分類に関しては、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染能力が高く、有効な治療法や予防法がない病原体(エボラウイルス、マールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。

お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

フリーダイヤル 0120-095-819 より詳しくお知りになりたい場合は、長崎大学感染症共同研究拠点ホームページをご覧ください。

ファックス 095-819-2960 ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

